

## 令和6年度一関市食育推進協議会会議録

- 1 会議名 令和6年度一関市食育推進協議会
- 2 開催日時 令和6年7月30日（火）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 多目的ホール
- 4 出席者
  - (1) 委員 小野寺拓也委員（会長）、佐藤律子委員（副会長）、伊東陸子委員、齋藤正則委員、佐藤一則委員（代理：渡邊秀幸氏）、佐々木梢委員、佐藤千代委員、小山麻理子委員、及川祥子委員、滝田直子委員、小山祐二委員、高橋京子委員（代理：小野寺江梨子氏）千葉祐佳委員、千葉京子委員、石田かつこ委員
  - ※欠席者 齋藤賢委員、伊藤瑠梨委員
  - (2) オブザーバー 岩渕克浩氏、菊地栄一氏
  - (3) 事務局 松田京士健康こども部長、及川久美子健康こども部次長兼こども家庭課長、佐藤和幸健康こども部次長兼健康づくり課長、伊東ゆり健康づくり課長補佐兼栄養主任主査、熊谷美鈴健康づくり課健康増進係長、佐藤千尋健康づくり課栄養士、菅原未琴健康づくり課主事、岩渕芳枝こども家庭課栄養主査、金野幸学校教育課長補佐兼保健係長、木村幸子学校教育課栄養主任主査
- 5 議題
  - (1) 説明 第4次一関市食育推進計画について
  - (2) 報告
    - ア 第4次一関市食育推進計画評価指標項目の進捗状況について
    - イ 令和5年度の食育の取組状況について
    - ウ 令和6年度の食育の取組について
  - (3) 意見交換 食育の主な取組について
  - (4) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 挨拶
  - (1) 会長挨拶

会長を務めさせていただいております、小野寺です。本日はどうぞよろしくお願いたします。本日は暑い中、また、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがと

うございます。また、日頃より皆様の活動の中で食育推進のご理解とご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

最近、地球温暖化による高温障害、降雨による水害、熊や猪等による獣害、新型コロナウイルス感染症を筆頭としたウイルスの脅威等、人間を取り巻く環境、私たち人間を脅かす脅威というものが続いております。これは直接人間に与えられる脅威であると同時に、農業・水産業・畜産業等の一次産業、つまりは食に関連する事業にも大きな影響を与えております。食卓に食事が出てくるのが当たり前の世の中ですが、次代を担う子ども達には、食が当たり前に出てくる時代ではないということ、どのような過程で食事が出てくるのかということを知っていただきたいと思っております。それには委員の皆様の変わらぬご協力が必要となりますので、暑い日がまだまだ続きますが、体調に十分に注意をしていただきながら、引き続き活動のご協力をお願いいたします。

また、本日は限られた時間での協議となりますが、忌憚のないご意見・ご質問を頂戴できればと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

## (2) 健康こども部長

皆様、こんにちは。本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいま進行から紹介がありましたが、本日、市長は国土交通省・財務省へ上京しておりましたので、私、健康こども部長の松田が市長に代わりましてご挨拶させていただきます。

まず皆様には、日頃よりそれぞれの立場から市の食育の推進にご理解とご協力をいただいているところであり、厚く御礼申し上げます。

今日、食環境は大きく変化し、人口減少、少子高齢化、そして、市販の弁当や惣菜といった調理済の食品を購入して食べる中食の市場拡大など、食に関する価値観やライフスタイルの多様化により、健全な食生活を保つことが難しい状況にあります。

また、家庭や地域で受け継がれてきた伝統的な食文化の継承、食品ロス、災害発生を想定した食の安全・安心の確保といった課題への対応も求められているところであります。食は命の源であり、食育は私たちが生きていく上での基本であります。この土地の風土や食文化などの特性を生かしながら、食に関わる人々への感謝と思いやりの気持ちを深めつつ、食べることの大切さを理解し、安全・安心な食べ物を選択する力や望ましい食習慣を育てることが大切であります。

こうしたことを踏まえ、当市の現在の第4次一関市食育推進計画では、市民一人一人が、家庭や地域とのつながりの中で、生涯にわたり健全な食生活を営むこと、心身ともにいきいきとした健康な暮らしの実現を目指し、「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指すSDGsの理念を踏まえつつ、健全な食生活の実現や豊かな食文

化の継承などの取組を推進することとしております。

また、これらの取組は、家庭、保育施設や学校、地域、食育推進団体、生産者、行政等が連携して、それぞれの役割を担い、推進していくこととしております。

この食育推進協議会は、食育の推進を図るため、委員の皆様からご意見やご提言をいただく場として設置しているところでございます。

そして、本日の会議では、第4次一関市食育推進計画の評価指標として設定した項目の進捗状況、今年度の食育の取組計画等について報告させていただき、皆様の所属団体等の取組についてご紹介いただき、意見交換と情報共有を行いたいと思っておりますので、委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただきますとともに、今後とも食育の推進のため、ご支援ご協力をお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 9 説 明

第4次一関市食育推進計画について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

## 10 報 告

(1) 第4次一関市食育推進計画評価指標項目の進捗状況について

(2) 令和5年度の食育の取組状況について

(3) 令和6年度の食育の取組について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

## 11 意見交換

委員一人一人から、所属団体等での食育推進の取組について意見交換を行った。

委 員 婦人会では、伝統、次に伝えたいものということで様々行っている。

ある婦人会では、1つの野菜、例えば大根であれば1本を全部食べきるという調理の方法などを、食の匠の方をお願いしてここ数年教えていただいている。これは新しい調理器具がなくても家庭にある調理器具を使って行う取組で好評のため、これからも続けていきたいと思っている。

委 員 学校給食センターに食材を提供しているが、新鮮で安心安全な食材を提供することは本当に重要なことであると思っている。地方の地野菜、干し大根や芋茎のような加工したものなど、私たちが伝統を引き継いでおらず注文があっても対応できないところがある。そうしたものについても少し勉強しながら、今の若い人たちにも伝統的な食材を提供する取組をできればと思っている。

委 員 農業協同組合の使命は、農業の振興である。その中の1つとして、子ども達にバケツ苗の作り方、提供、そして様々な農業体験を行っている。また、大豆工房

で豆腐を作るなど、給食センターにもご利用いただいている。トータル的に様々な取組をさせていただいている。今後も引き続き内容を充実させていきたいと思っている。

委員 一関地区保育協議会責任者ということで参加させていただいている。私は保育園の給食を担当しており、子ども達の野菜嫌いを克服するため、子ども達自身で野菜の栽培を体験するというを行っている。しかし、子ども達は正直なところがあり、好き嫌いの克服につなげられないところが今後の課題であると思っている。引き続き色々な体験をしていきたいと思っている。

委員 幼稚園は3園あるが、昨年度末に栄養士を中心に食育の年間計画の見直しを図った。各園それぞれの事情があるため、年間計画の様式を統一し、内容についてはお互いの園を参考にしながら見直し、計画を立てるということで今年度進めている。

また、「食育だより」を栄養士から毎月いただき、それを家庭に周知し、家庭でも参考にさせていただいているという現状である。

園ではお弁当のため、それぞれの家庭の事情で限られた食材・食品になってしまうこともある。そのため、様々な食事に触れられるよう会食の機会を増やしたり、親子参観日の際に栄養士から食育の講演会をしていただいたりしている。家庭でもすごく参考になったということで実践している。

委員 私は中学校に勤務しているが、調理実習でサバの味噌煮、キュウリとわかめの酢の物、すまし汁を作った日があった。私たちから見ると質素な和食のため、子ども達は食べないのではないかと思ったが、子ども達は思いのほかとても喜んでいた。そのため、何が美味しいのか聞くと、「わかめとキュウリの酢の物が酸っぱくて美味しかった」と言われた。それを聞いて、子ども達は酸っぱい食べ物も大丈夫なのだと言われた。私もPTA、また親の立場として、どうしても仕事に追われているため時短でできる、例えば、お味噌汁の出汁を一からとるのではなく市販の出汁を使う、酢の物もいわゆる簡単酢のようなもので作るということをしている。少し手を加えて一から作ったものも良いと反省した。このように食育ということで、たくさん子ども達からも学ばせていただいている。

委員 小学校の校長会で参加している。子ども達は成長期のため、食育というものはとても大事だと感じている。それに関して、本当に関係機関の皆様にはご指導、ご協力をいただき感謝申し上げます。

本校では、食育として年に3回給食センターの栄養指導教諭から子ども達に学級指導をしていただいている。今年度も野菜のこと、生活習慣病を予防するため

の食事、よく噛んで食べようという内容で3回お願いしているところで、毎年本当に良い授業をしていただいている。

食育月間の6月には、放送委員会の子ども達が食に関する絵本を選び、昼の放送で読むという活動をしている。子ども達が給食を食べながら食に関する話を聞けるという活動である。また、今年度1月には地元の生産者との交流給食を予定している。様々な取組を行っているが、先ほども話に出たように、ご家庭ではおうちの方々はとても忙しい様子が見受けられる。おそらく食事のことを考え作っていると思うが、自分も含め、簡単なものになりがちだということを保護者の方からも聞いている。そのため様々な食材を食べることができ、家では出てこないような食材・調理法の給食はすごくありがたいと思っている。

朝食についてだが、子ども達は今夏休みである。子ども達に、夏休み中はやる気スイッチを入れて過ごさないといけないこと、やる気スイッチを作動させるためには「早寝・早起き・朝ごはん」の3つをセットにすると良いということ話を話した。やはり、食というのは本当に大事なため、学校でも年間を通して指導していきたいと思っている

委員 本校では、今年度の3年生から週に2時間、フードデザインという科目で調理をする時間を設けている。生徒たちは、小学校・中学校にかけて様々な調理実習を経験してきたと思うが、1人の生徒から「初めて包丁を握りました」という話があった。本校の調理実習は小学校・中学校のようなグループの調理実習ではなく、各テーブル1人1台、自分で食べる食事は自分で作るという方式である。おそらくグループで調理実習をしている中では包丁を使う役割を担ったことがなかったため、初めて包丁を持って食事を完成させる経験をしたという話である。その生徒達は今、就職のための職場見学に行っており、来年の春からは一人暮らしをする。今のうちに包丁を持たせておいて良かった、頑張ってもらいたいと思う。

また、先ほどの1つの食材を全て使い切るという話に非常に感激した。高校生はものに非常に満足し、充足した暮らしをしているため、ものを使い切るということを夏休み明けてからの調理実習で参考にさせていただきたい。

委員 学生への食育の講義において、昨年度は、実践的に学ぶということでポラーノのアイスクリームと一緒に作った。小学校・中学校・高校からアンケートを取り、アレルギーがある子どもも食べることができ、かつ地元食材を使うアイスクリームを作る活動を1年間行った。地元食材を調べ、アレルギーについて勉強し、栄養士やポラーノの方々とデザインを考えながら作った。このような実践的なことを通して行うことがとても大切だと思う。今年4月に新商品としてポラーノに出

ていると思うので、よかったら食べていただきたい。

委員 岩手県栄養士会県南地区では毎年、一関市の農業祭で栄養士会としてのブースを出展させていただいている。毎年のテーマに沿って来た方と話したり、食について啓発したりする活動を10年程続けている。先ほどのベジメータ®というのは、大変おもしろいと思った。PRとしてお祭りなどで活用すると、もっと野菜を食べていただけたらと思う。

委員 一関保健所では主に、食生活改善推進員をはじめとした関係機関と連携した街頭キャンペーンや普及啓発を行っている。働き盛り世代の方を対象とした出前講座では、ベジメータ®や血管年齢測定を実施し、健康状態の見える化を進めながら行動変容につながる働きかけを意識して行っている。また、給食施設の巡回指導、給食施設の栄養士や調理師などの調理に従事する方々を対象とした研修会等を行い、好事例を共有しながら一緒に食育を進めている。

また、栄養成分表示、原材料表示など消費者が安心安全に食べることができるような表記の指導なども行っており、そのような協力もさせていただいている。

委員 保健推進委員のため健診等を重点としているが、私自身、食生活改善推進員としても学ばせていただいている。野菜を食べるようにということだが、このごろは値段も高く、簡単に購入できないということもある。食生活改善推進員からは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、簡単に作ることができるものを教えていただいた。調理が簡単なものは助かるし、嬉しいと思っている。

先ほど伝統的なもののお話があったが、農家の方が作っているたくあん等、今まで伝統的にやってきたものがすぐにはできないことは大変なことだと思っている。

食生活改善推進員に教えていただいたものを保健推進委員にもお話ししていきたいと思っている。保健推進委員でも何か料理をできたらと思っているところである。

委員 歯科衛生士が行う歯科からの食育とは、歯や口の発達に応じて食べるという働きの発達を促し、よく噛んで食べる習慣を学び取り、歯や口の健康を守ることで食べる働きを維持し、生涯を通じて安全で快適な食生活を送られるよう支援することである。それぞれのライフステージに合わせた食べ方と口と体の健康づくりに加え、ライフコースアプローチ、胎児期から高齢期に至るまで人の生涯を経時的に捉えた健康づくりの観点からアドバイスをしていくことが重要であると思っている。幼いときから成長に合わせた食育を続けていくことで、心身ともにより豊かな人生を送ることができるようになると思う。歯科衛生士は食育に対して実

践的なサポートとアドバイスを行いながら、家庭、学校、職場、地域などと連携を図っていきたいと思っている。

一関は9月から10月頃になると思うが、岩手県歯科衛生士会の令和6年度の食育推進の取組として、藤沢こども園、渋民保育園で保育園歯科指導、お口遊びを取り入れた歯科保健指導を実施する。食べる機能の課題に早期の気づきを促すとともに、個別の対応を啓蒙する内容である。

委員 食生活改善推進員として伝統食や郷土食の取組をしているが、なかなか進まないのが現状である。今まで伝統食や郷土食を作っていた方が高齢になって作ることができなくなったということもあり、餅料理などの伝統食や郷土食の取組を進めている。このような伝統食や郷土食といった食べ物が消えているわけではないが、作り方の指導などを行い、みんなで作ることで、伝統食や郷土食を絶やさぬよう、また、今後も伝えていけるよう活動を進めていきたいと思う。

また、先ほどお話のあった、ベジメータ®については市内で行う。時間は1人5分程で、指を機械に入れるだけでどのくらい野菜を摂取しているのかが分かるため、時間のある方は一度試していただきたい。

委員 道の駅巖美溪では現在、夏野菜が非常に豊富な時期であり、店内はナス、ピーマン、トマト、トウモロコシなどで溢れている。同時期に多くの量が採れるのが夏野菜の特徴である。野菜摂取量70gアップを目指すということで、産直で野菜を買っていただくと、生産者、直売の経営、消費者にとっても良いことだと思う。ぜひこの野菜摂取量アップをどんどん進めていきたいと思っている。

また、昨今、フードロスも非常に大きな問題となっている。例えば、ナスが大量に採れる時期は、経営しているレストランで、餅の具にする等の取組を続けているが、今後はもっと大量に採れる野菜を上手く使えるように色々な計画を立てていきたい。

## 12 その他

オブザーバーから、食育推進について資料に基づき情報提供をいただいた。

オブザーバー ただいまご紹介いただいた、東北農政局である。今、皆様のお話を伺い、創意工夫を重ねながら食育推進についてご尽力いただいているということで誠に感謝申し上げます。

はじめに「みんなの食育白書」についてお話をさせていただく。一関市からの説明にもあったが、食育の推進については第4次食育計画を策定して進めさせていただいている。この「食育白書」は、現在の計画の状況を取りまとめたものとなっている。

「食育とは」について、先ほどの説明とも重なるが、食育基本法を基として、ボランティア、農林漁業者、学校、各種団体、事業者、行政等が連携しながら食育を推進していくこととなっている。今後ともご協力をよろしくお願ひしたい。

「我が国の食料安全保障と食育の推進」の食料自給率について、残念ながら我が国はあまり高くはない。2021年度の数値では、カロリーベースでは38%、生産額ベースでは63%と、昭和40年代と比べるとカロリーベースでは数値が約半分になっている。国内外の食糧事情等も含めて、中長期的には食糧事情もひっ迫すると提言されている。それを受けて、食料自給率を上げることも今後進めていかなければならないということが記載されている。事例として、福島県喜多方市の小学校においては、農業科という教科として食農教育に取り組んでいる。苗の植え付け、除草、収穫の生産、さらに最終的な販売までの一連の過程を授業に取り入れている。

「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」について、新型コロナウイルス感染症という特殊な状況下での新たな取組として、デジタル化の対応、オンラインを活用したセミナーや講演等を今後も進めていくということが記載されている。

以上のような内容について記載されているため、時間があるときにぜひお読みいただきたい。

続いて農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」について、食料と環境を未来に継承していくための持続可能な食料システムを構築することに取り組んでいる。その中でも、食育、消費者に関する部分としては、「わたしたちにできること」ということである。環境に配慮して生産された農産物や有機農産物の生産の拡大、購入するときはそのような特別栽培農産物を選んでいこうという取組、温室効果ガス削減の取組を行って生産された製品に目印となるステッカーを貼ることで消費者に伝える取組などを行っている。また、食品ロスについては、家庭でできる取組として、食品チェック、必要なものだけを買う、買い物時は手前の商品から買うなどの取組を行うことで、食品ロスの減少を目指して行っている。

来年が第4次食育推進計画の最終年度ということで、各目標についての中間取りまとめを行っているところである。数値を見ていくと、朝食を食べる子どもや若い世代の割合、食育に関心をもっている国民の割合が計画作成時に比べて低くなっているという現状である。一関市の第4次計画の取りまとめを拝見

すると、やはり全国的と同じような傾向であると感じている。我々としても、最終年度に近いたため目標値に近づけるよう推進させていただく。皆様についても今後ともご協力をよろしくお願いしたい。

最後に、現在、第9回食育活動表彰というものを募集している。これについて事前に申し込むことが可能である。先ほどご紹介いただいた「1人1作品の料理を作る」などというのは、素晴らしい取組だと思うため、皆様の取組について応募をご検討いただきたいと思います。食育活動表彰で受賞された事例については、事例集ということで全国に配布している。食育は幅広い。取組方法についての参考資料として事例集を作成しているため応募をよろしくお願いしたい。

13 担当課 健康こども部健康づくり課